

第64回全日本教職員バドミントン選手権大会 一般男子団体優勝：熊本県

2025年に開催された全日本教職員バドミントン選手権大会において、一般男子団体の部で熊本県チームが優勝を果たしました。監督として、まずこの結果は選手たちのひたむきな努力と強い覚悟の賜物であると感じています。

今回のチームは、補欠のいない5名ぎりぎりの編成でした。一人も欠けることが許されない状況の中で、選手たちは常に高い責任感を持ち、それぞれが自分の役割を全うし続けました。連戦による体力的な厳しさや精神的なプレッシャーも大きかったはずですが、誰一人として弱音を吐くことなく、最後まで戦い抜いた姿は非常に頼もしいものでした。

決勝に至るまでの道のりは決して平坦ではありませんでしたが、5人が常に一体となり、「全員で戦う」という意識を持ち続けたことが最大の強みでした。試合に出ている選手だけでなく、ベンチにいる選手も含めて互いを鼓舞し合い、支え合う姿は、このチームの象徴であったと感じています。

教職員としての本務を抱えながら競技に取り組む中で、時間の制約や環境の制限は避けられません。その中でも工夫を重ね、努力を継続してきた選手たちを誇りに思います。この優勝は、単なる結果ではなく、「責任」「結束」「挑戦」といった価値を体現した成果です。今後もこの経験を土台に、それぞれがさらに成長し、教育現場においてもその姿勢を還元してくれることを期待しています。支えてくださったすべての方々への感謝を胸に、熊本県チームとして新たな一步を踏み出していきたいと思います。以下に選手たちのコメントを紹介し、結びといたします。

(熊本県事務局 木下 修二)

県を代表して戦うので責任を持って臨みましたが、まさか優勝するなんて思ってもいませんでした。メンバーと共に戦う中で失うものがないというチャレンジャー精神、試合を楽しむという気持ちが結果に繋がりました。今年もチャレンジャー精神を持って試合に臨みたいと思います。

(高野 拓朗)

なかなか人数が揃わない中、なんとか出場できました。出場したからには、いい結果を残したいとチーム全員で頑張り、優勝することができました。今年も一つでも多く勝てるように頑張ります。

(井村 友哉)

これまでお世話になってきた方々や熊本県に恩返しがしたいという思いで大会に臨み、最後まで諦めることなく優勝することができました。また、この大会を通して、子どもたちにも努力することの大切さや、諦めずに挑戦し続けることの大切さを少しでも伝えられればと考えています。自分が頑張ることで、少しでも共感し、「自分も頑張ってみよう」と前向きな気持ちになってくれる人がいれればいいです。

(中村 大哉)

素晴らしい仲間と共に戦えたことが誇りです。また、支えてくださった方々に感謝します。コートでも学校でも、常に全力で挑戦する姿を届けていきたいです。

(菊岡 耕介)

自分のプレーをすることを心がけ、応援に全力を注ぎ、仲間と心をつなげてつかった団体優勝の喜びは何より大きかったです！素晴らしい仲間と、最高の経験ができたことを誇りに、これからの生活に活かしていきたいと思います。

(奥村 遼生)

【熊本県教職員バドミントン連盟】